2025年度 年報発刊にあたって

情報統括本部本部長
総長　石橋　達朗

情報統括本部は、本学の全構成員に対し、教育・研究・事務・診療に必要な共通的情報基盤および情報サービスを提供することを目的に、2007 年 4 月に発足しました。本部は、情報基盤研究開発センター、事務局情報システム部、および附属図書館を中心に、関連部局から参加する教職員からなる部局横断的な全学的組織として、継続的かつ安定的な活動を行っています。2020 年 10 月には、CIO (Chief Information Officer) と CISO (Chief Information Security Officer) の分離や副 CIO を配置するなど、情報セキュリティ強化の観点からガバナンス体制を整備しています。また、多様な領域でデジタル変革（DX）を強力に進めるため、2022 年度にデータ駆動イノベーション推進本部を設置し、情報技術活用の場を更に拡げています。

本年報は、2025 年度に行った主な活動を報告するとともに、将来のサービス向上に向けた方針や方向性を、学内外の利用者に周知することを目的に発行しています。本部では今後とも、利用者の視点に立って新しい技術を取り入れ、安全・安心に、安定して使いやすい情報基盤と情報サービスを引き続き提供していけるよう、皆様からの忌憚のないご意見やご要望をお寄せいただければ幸いです。

2025年度
情報統括本部 活動報告

情報統括本部副本部長
情報環境整備推進室長
理事（CIO）　内田　誠一

情報統括本部では、2025 年度に主に次の活動を行いました。引き続きサイバー攻撃に対する対応や災害時の対策に取り組みつつ、利用者にわかりやすい情報提供や支援サービスの強化を行うなど、情報環境の整備を進めてまいります。

【情報共有基盤の安定運用】

日々の教育・研究・診療等の活動を進めて行く上で、構成員の間で様々な情報の伝達が行われます。これらの情報伝達をスムーズかつセキュアに行うための情報基盤の運用を滞りなく行いました。2025 年度は全学認証基盤システムを更新しました（本運用開始 2025 年 9 月）。また、Microsoft 365 利用におけるセキュリティ対策強化を目指し、2026 年 1 月 5 日から 8 月 31 日までを経過措置期間とする MFA（多要素認証）必須化の運用を開始しています。更に、包括ライセンス契約等に基づき、「マイクロソフト社製品（OS、Office 等）」等の全学ソフトウェアの提供も行っています。

【情報セキュリティ強化】

全学を対象とした情報セキュリティ対策に係る自己点検及び、学内複数部局を対象とした情報セキュリティ監査を実施すると共に、支線 LAN 管理者講習会で生成 AI のセキュリティリスク」を講演し、学内における情報セキュリティのさらなる強化を図りました。一方で、2025 年度においてもセキュリティインシデントは少なからず発生しており、九大 CSIRT を中心に情報セキュリティインシデントの応急対応、調査等の事後対策を行いました。

【情報ネットワークシステムの安定運用】

2025 年度は、基幹ネットワーク機器、無線 LAN サービス（kitenet、edunet、eduroam）の運用管理、維持、調達、障害対応を行うと共に、情報セキュリティインシデントの防止のため、学内ネットワークの監視を行い、インシデント発生時には九大 CSIRT と連携して対応しました。

【研究支援】

2024 年 10 月より運用を開始したスーパーコンピュータ玄界は、強力な計算能力を持っており、人工知能の実現に必要な大規模なデータを迅速かつ効率的に解析できる環境を提供しています。また、データ駆動イノベーション推進本部データ分析支援部門の運用に協力しました。

【教育支援】

『学習支援システム』、『プログラミング学習用サーバ』、『オンライン研修システム』、『アンケートシステム』の管理、運用を滞りなく行いました。また、学生 PC 必携化に関して、入学前の準備作業に関する資料作成や問い合わせ対応を行いました。問い合わせ対応の効率化のために、AI チャットボットを導入して利用しています。

2025年度
情報基盤研究開発センター 活動報告

情報基盤研究開発センター長　美添　一樹

九州大学情報基盤研究開発センターでは、計算科学、情報科学、データ科学を軸に、通信、情報セキュリティ、教育支援等、幅広い情報関連分野に関する研究開発を行うとともに、全国共同利用施設として、スーパーコンピュータシステム等の大規模計算機システムによる計算サービスを全国の研究者に対して提供しています。さらに情報統括本部の一員として、情報システム部と連携して九州大学内 IT に関する最先端技術を活用した教育・研究を推進するとともに、全学の教育・研究活動への還元を進めています。本センターの資源を有効活用することにより、様々な教育・研究活動が更に発展できるよう努めてまいります。

【応用データ科学研究部門】
データ科学を援用した学際研究と教育、および問題解決に資する研究開発を推進する。

【教育情報基盤研究部門】
ICT を活用した学習支援システム、教材作成システム、遠隔講義システム等の教育情報基盤に関わる研究開発を推進する。

【先端サイバーネットワーク研究部門】
ネットワーク及びセキュリティ技術の高度な研究開発を推進する。

【先端計算科学研究部門】
計算科学 / 計算機科学の研究を核として、幅広い学術応用分野の応用に資する先端計算機利用の共通基盤技術開発を推進する。

【情報システムセキュリティ研究部門】
情報システムや情報資産を守るために、サイバー攻撃の検出・防御手法、情報システムをセキュアにする設計・構築手法・運用手法に関する研究開発を推進する。

【情報基盤研究開発センター附属 汎オミクス計測・計算科学センター】
数理科学、データ科学、計測科学、計算科学を高度に統合した「汎オミクス科学」の方法論を身につけた研究者を育成するとともに、学術分野や社会課題の未解決課題に挑戦し、ブレークスルーを目指す。

九州大学が目指す「総合知で社会改革を牽引する大学」を実現するために策定された「Kyushu University VISION 2030」における DX のビジョンである「新たな価値を次々に生み出すデータ駆動型の教育、研究、医療を展開し、人々に真の豊かさをもたらす未来社会の実現」は、情報基盤研究開発センターが中心となって取り組むべきものであると考えております。さらに、九州大学の第 4 期中期目標・中期計画では「データの最大限活用に向けて、学内の様々なデータの連携・統合、データの新たな利用法・価値を創出するため、既存の学内情報サービス基盤を強化する。」と具体的に述べられており、これが情報基盤研究開発センターの第 4 期中期目標・中期計画の根幹になると考え、この目標達成のために教育・研究活動を努めてまいります。

2025年度
サイバーセキュリティンター 活動報告

サイバーセキュリティセンター長
総長補佐（CISO）　岡村　耕二

九州大学サイバーセキュリティセンターは、わが国あるいは国際的な課題であるサイバーセキュリティの様々な問題を解決することを目的としています。研究面では外部資金を獲得し、海外の大学とソサエティ 5.0 の重要な構成要素となる IoT をセキュアにする研究に取り組んだ経験から近未来のサイバーセキュリティ対策に関する活動を行っています。教育面では、九州大学の 1 年生全員が受講する講義「サイバーセキュリティ基礎論」をはじめ選択科目の「サイバーセキュリティ演習」「データセキュリティ」といったセキュリティに関する教育を担当しています。さらに、文科省の人材育成事業である enpit に参画した経験をいかして、学部生、大学院生ならびに社会人を対象にした専門家の育成教育の活動を行っています。また、LINE ヤフー株式会社、福岡県警や糸島市などとの国内産官連携を積極的に進めています。さらに国内外の慶應義塾大学、米国メリーランド大学ボルチモア校、豪州ニューサウスウェールズ大学、印国インド工科大学デリー校、英国ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校等とサイバーセキュリティに関する国際連携を推進し、サイバーセキュリティに関する教育・研究を幅広く持続的に行っています。